

医療通訳養成講座 2026年度シラバス

科目名	医療通訳 I (ベトナム語)
開講期 時間	春学期(4月～8月) 土曜日3限(15:45～17:15)
担当教員	TRẦN THỊ MỸ(チャン・ティ・ミー)
授業形態	ZOOMによるリアルタイム配信

授業の目標	
医療通訳に従事する上で必要な専門用語及びスキルを身につける。	

授業の概要	
<p>春学期は、専門用語に加え、通訳実践に必要な各種スキルや、受講者が通訳を自主的に練習する際に活用できる訓練法の紹介を通じて、基礎形成に重点を置く。</p> <p>秋学期は、各診療科や治療法に関する専門用語を引き続き学ぶと同時に、春学期に習得した内容を十分に生かし、可能な限り多くの模擬通訳演習を行う。</p>	

授業計画		
1	授業計画	通訳の定義&分類、医療通訳の位置付け
	事前学習	通訳の定義&分類、通訳と翻訳の違いについて考えておく
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・配布された資料を熟読してポイントを整理する ・用語集(グロサリー)を作成し、更新していく ・課題: 医療機関のキャッチコピーを1つピックアップして即座に訳出した通訳バージョンと推敲した翻訳バージョンを用意して、次回の授業で発表する
2	授業計画	通訳に必要な言語力、通訳の過程
	事前学習	経験してきた通訳の仕事を振り返って、自分が通訳する際にいかなる流れを経て作業しているかについて考えておく
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・配布された資料を熟読してポイントを整理する ・用語集を更新していく
3	授業計画	クイックレスポンス&シャドーイング
	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・指定された文章を音読する ・「人体各部位(前)&(後)」
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・配布された資料を熟読してポイントを整理する ・用語集を更新していく

4	授業計画	ノートテイキング
	事前学習	通訳のためのノートとその他のノートの違いについて考えておく
	事後学習	・配布された資料を熟読してポイントを整理する ・用語集を更新していく
5	授業計画	医療従事者の発話(1)短文
	事前学習	「骨格各部位」
	事後学習	・配布された資料を熟読してポイントを整理する ・用語集を更新していく
6	授業計画	医療従事者の発話(2)中文
	事前学習	「筋・腱・靭帯各部位」
	事後学習	・配布された資料を熟読してポイントを整理する ・用語集を更新していく
7	授業計画	医療従事者の発話(3)長文
	事前学習	「関節・骨各部位」
	事後学習	・配布された資料を熟読してポイントを整理する ・用語集を更新していく
8	授業計画	患者の発話(1)短文
	事前学習	「消化器各部位」
	事後学習	・配布された資料を熟読してポイントを整理する ・用語集を更新していく
9	授業計画	患者の発話(2)中文
	事前学習	「呼吸器各部位」
	事後学習	・配布された資料を熟読してポイントを整理する ・用語集を更新していく
10	授業計画	患者の発話(3)長文
	事前学習	「心臓各部」
	事後学習	・配布された資料を熟読してポイントを整理する ・用語集を更新していく
11	授業計画	【動画URL】心臓のしくみと疾患について
	事前学習	URLの動画を確認する
	事後学習	・配布された資料を熟読してポイントを整理する ・用語集を更新していく

12	授業計画	【動画URL】リンパ腫
	事前学習	・「動静脈・リンパ節各部位」 ・URLの動画を確認する
	事後学習	・配布された資料を熟読してポイントを整理する ・用語集を更新していく
13	授業計画	【動画URL】COPD
	事前学習	URLの動画を確認する
	事後学習	・配布された資料を熟読してポイントを整理する ・用語集を更新していく
14	授業計画	医療通訳業務の流れ
	事前学習	・配布資料を確認する
	事後学習	★春期間の内容を総復習する
15	授業計画	病院実習 ※東京科学大学湯島キャンパスで病院実習を実施します。
	事前学習	第14回までの授業の復習をし、通訳の方法について考える
	事後学習	授業を振り返り、通訳の方法をもう一度考える

成績評価の方法・基準

課題提出30%、授業中のパフォーマンス70%

履修上の注意

初回から第4回までは、通訳のすべての分野に共通して必要となる基礎知識を学ぶ。第4回以降は、常にノートを取れる体制で通訳練習に取り組むことが求められる。各回の授業では多くの専門用語が登場するため、授業を録画した動画を活用し、その週のうちに専門用語や通訳場面ごとの注意点を整理することが重要である。継続的な復習と整理を通じて、通訳スキルの着実な向上を図る。講義の際は、講師と受講者のやり取りを交えた双方向で行う。課題の発表&ディスカッションの際は、受講者は主体的・能動的に参加し、講師は適宜コメントする。

教科書

『医療通訳』

多文化共生センターきょうと

<https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/001381289.pdf>

以下から冊子版を購入することも可能です。なお、冊子版の購入は任意です。

<https://www.jme.or.jp/news/220916.html>

参考書

なし